

その他ガンマ線核種の解析（平成28年度）

Cs-134 及び Cs-137 以外のガンマ線核種（事故由来放射性物質（I-131、Ag-110m、Te-129、Te-129m、Nb-95、Sb-125、Ce-144 等）及び主な自然由来放射性物質（K-40 等））について媒体（水質、底質及び周辺環境（土壌））別に解析を行った。

なお、ゲルマニウム半導体検出器付属の解析ソフトにより核種ピークを検出した場合は、放射能が検出下限値以上のときは検出とし、検出下限値より小さいときは不検出とした。

異なるエネルギーのガンマ線を複数放出する Zr-95、Cs-134、Co-60、Fe-59 については、各エネルギーの放出割合により検出判定及び検出割合が異なる。

水質 3,890 検体、底質 3,088 検体、周辺環境（土壌）4,643 検体について解析したところ、人工核種については、Cs-134 及び Cs-137 が検出され、それ以外の核種は検出されなかった。

また天然核種としては、以下のとおりである。

水質では Pb-212（同種類総検体数の 17%）、Pb-214（同 10%）、Tl-208（同 5%）、Bi-214（同 5%）、K-40（同 8%）が検出された。

底質では Pb-212（同 64%）、Pb-214（同 75%）、Tl-208（同 40%）、Bi-214（同 66%）、Ac-228（同 35%）、K-40（同 92%）等が検出された。

周辺環境（土壌）では Pb-212（同 39%）、Pb-214（同 53%）、Tl-208（同 15%）、Bi-214（同 44%）、Ac-228（同 15%）、K-40（同 94%）等が検出された。